

シンポジウム

入場無料

定員150名
(申込先着順)

近年の豪雨災害と 気候変動、 今後の適応策

私は安全だ、災害のおそれがないとはいえない時代になっています。
西日本豪雨、九州北部豪雨等、近年になって、大きな被害をもたらす豪雨が増えています。
これらの豪雨は、私たちが排出する二酸化炭素等を原因とする気候変動（地球温暖化）により、
より極端で、頻繁なものとなっています。
このシンポジウムでは、豪雨と気候変動の関連を明らかにして、
将来に備える防災、気候変動に対する適応について、
科学者の調査や研究の成果をわかりやすく紹介し、皆さんと一緒に考えます。

日時

2019年8月20日(火)

13:30~16:30 (13:00開場)

会場

岡山国際交流センター 2階 国際会議場

岡山市北区奉還町2-2-1

対象

豪雨が心配な方、気候変動に関心をお持ちの方、一般の方

主催/山陽学園大学・法政大学(SI-CATプログラム)・岡山大学

共催/公益財団法人 岡山県環境保全事業団

後援/岡山県・岡山市・倉敷市・中国四国地方環境事務所・山陽新聞社・RSK山陽放送

シンポジウム参加のお申し込みは裏面をご覧ください。

お問い合わせ先

山陽学園大学地域マネジメント学部 気候変動適応チーム(担当:白井) 岡山市中区平井1-14-1
メール:nshirai@sguc.ac.jp TEL:086-901-0687(平日10:00~17:00)

会場地図



シンポジウム 近年の豪雨災害と気候変動、今後の適応策

当日スケジュール

- 13:30 開会
- 13:30~13:50 趣旨説明と調査報告 西日本豪雨からの気づきと住民意識 (山陽学園大学 白井信雄)
- 13:50~14:20 基調報告 西日本豪雨による岡山の被害と要因 (岡山大学大学院 前野詩朗)
- 14:20~14:40 問題提起 豪雨への気候変動影響 (京都大学 中北英一)
- 14:40~15:00 近年の豪雨災害の特徴と緊急的適応策 (九州大学 小松利光)
- 15:00~15:20 地域からの気候変動への適応策 (法政大学 田中充)
- 15:20~15:30 休憩
- 15:30~16:30 パネルディスカッション及び会場との対話
- 16:30 閉会



講師紹介



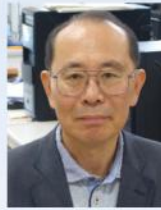
西日本豪雨からの 気づきと住民意識

山陽学園大学
地域マネジメント学部 教授
白井 信雄

災害がない国と言われる岡山に移住して、いきなりの豪雨災害。気候変動の地域への影響と適応策に関する研究に参加する者として、今回のシンポジウムを企画するに至った経緯と趣旨を説明します。また、西日本豪雨による住民意識の変化、豪雨と気候変動の関連の理解に関するアンケート調査結果を報告します。

プロフィール

民間シンクタンク研究員、法政大学教授 (サステナビリティ研究所) を経て、2018年4月より岡山に移住。民間シンクタンク時代の環境省、国土交通省、林野庁等の委託調査の経験を活かし、環境・エネルギー分野での実践を具体的に支援する研究・教育活動を展開中。



西日本豪雨による 岡山の被害と要因

岡山大学大学院
環境生命科学研究所 教授
前野 詩朗

2018年7月に発生した西日本豪雨により岡山県内で甚大な水害が発生しました。特に、倉敷市真備地区では小田川とその支川で8箇所堤防が決壊し、多数の人命が失われました。講演では、河川の決壊状況や数値シミュレーションを用いた氾濫過程を紹介するとともに、今次水害で明らかになった課題と提言を示します。

プロフィール

河川防災、河川環境保全をテーマとして岡山を代表する旭川、高梁川、吉井川を主な研究フィールドとして活動している。国土交通省や岡山県の河川整備に係る委員会委員長等を務める。西日本豪雨災害を受けて、小田川堤防調査委員会委員長等を務めた。



豪雨への 気候変動影響

京都大学
防災研究所 教授
中北 英一

このままのペースで温室効果ガスを排出し続けた場合、地球温暖化によって我が国の台風や梅雨豪雨、ゲリラ豪雨が世紀末にはどうなるのか? について、気候モデルによる科学的な将来予測によって明らかになってきていることを、梅雨豪雨を中心に紹介いたします。

プロフィール

京都大学大学院土木工学専攻修士課程修了後、防災研究所助手、助教授、工学研究科助教授を経て2004年から現職。土木学会、水文・水資源学会、気象学会から研究業績賞、論文賞、学術賞等を受賞。国土交通省、気象庁、文部科学省、環境省等の審議会委員等に就任中。



近年の豪雨災害の 特徴と緊急的適応策

九州大学
名誉教授
小松 利光

一昨年の九州北部豪雨災害と昨年の西日本豪雨災害の特徴を示すとともに、災害の様相の変化とそこから得られる教訓をもとに、今後取るべき対策 (適応策) のあり方について整理します。さらに人命を守り、被害を大きく減らすために安価で時間をかけずに我々に出来る「緊急的適応策」を提案します。

プロフィール

2012年、九州大学特命教授、名誉教授。九州北部豪雨災害土木学会緊急調査団長、日本工学会副会長、日本学術会議会員、国土交通省:九州ダムフォローアップ委員長、筑後川右岸流域河川・砂防復旧技術検討委員長、鶴田ダム洪水調節に関する検討会委員長等を歴任。



地域からの 気候変動への適応策

法政大学社会学部
地域研究センター 教授
田中 充

今後一層激しくなる気候変動に伴い、地域社会は様々な影響を受けます。気象災害、熱中症、農業被害等、その影響は私たちの暮らしの多方面に及びます。こうした気候変動リスクへの備えとして、行政・コミュニティ・住民が協働して対応する適応策について、文科省SI-CATプログラムの成果も交えながら考えます。

プロフィール

東京大学大学院修了、2001年4月より法政大学社会学部及び大学院教授。現在、文部科学省「気候変動適応技術社会実装プログラム」サブ課題代表、中央環境審議会、気候変動影響評価等小委員会等の委員を務める。著書に「気候変動に適応する社会」(技報堂)等。



総合司会と パネリスト

ポウジョレヌプロジェクト
中井 佳絵

ポウジョレヌプロジェクトが学校防災教育を持続可能にするため実施している取り組みや、去年の西日本豪雨災害で12名が犠牲になった故郷・広島県熊野町の小学校にて今年度実践中の学校防災活動について話題提供します。児童が祖母の避難行動や自主防災組織の活動へ与えた影響事例も紹介します。

プロフィール

大学卒業後、フリーアナウンサーとして広島県のラジオ・テレビ局にて番組に多数出演する。2010年に防災士取得。2011年に法政大学大学院に進学し2012年に政策学修士号を取得。法政大学大学院地域創造システム研究所特任研究員、徳島大学大学院 非常勤講師を経て、現職。

シンポジウム参加お申し込み方法

下記専用サイトにアクセスの上、必要事項を入力してお申し込みください。

<https://form.os7.biz/f/6770d4cd/>

- 定員は150名です。(申込先着順) 定員になり次第締め切らせていただきます。
- 専用サイトからお申し込みいただいた方には返信メールをお送りいたします。お申し込みから10分以上経っても返信メールが届かない場合は、うまく送受信されていない可能性があります。再度お申し込みいただくか、表面のお問い合わせ先までご連絡ください。



スマホからでも
お申し込みいた
できます。